

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月5日
【四半期会計期間】	第170期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社カナデン
【英訳名】	KANADEN CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 本橋伸幸
【本店の所在の場所】	東京都中央区晴海一丁目8番12号トリトンスクエアZ棟
【電話番号】	東京03(6747)8800（代表）
【事務連絡者氏名】	経理財務部長 菅谷真之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区晴海一丁目8番12号トリトンスクエアZ棟
【電話番号】	東京03(6747)8800（代表）
【事務連絡者氏名】	経理財務部長 菅谷真之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社カナデン関西支社 （大阪市中央区松屋町7番7号） 株式会社カナデン中部支店 （名古屋市中村区名駅南一丁目19番1号） 株式会社カナデン九州支店 （北九州市小倉北区菜園場一丁目2番20号） 株式会社カナデン東北支店 （仙台市青葉区上杉一丁目17番7号(仙台上杉ビル)） 株式会社カナデン神奈川支店 （横浜市中区本町一丁目3番地(綜通横浜ビル)） 株式会社カナデン北関東支店 （さいたま市大宮区宮町四丁目150番地1(カネゲンビル)） （注） 印は金融商品取引法の規定による縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜のため縦覧に供しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第169期 第2四半期連結 累計期間	第170期 第2四半期連結 累計期間	第169期
会計期間	自2018年 4月1日 至2018年 9月30日	自2019年 4月1日 至2019年 9月30日	自2018年 4月1日 至2019年 3月31日
売上高 (百万円)	54,405	56,781	123,337
経常利益 (百万円)	1,889	1,269	4,617
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,272	1,811	3,253
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,125	1,700	2,703
純資産額 (百万円)	43,744	44,401	43,224
総資産額 (百万円)	71,175	72,855	86,801
1株当たり四半期(当期)純利 益 (円)	42.92	63.58	110.05
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	61.5	60.9	49.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,612	655	4,334
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	251	509	2,187
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	513	560	2,618
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	19,727	15,948	16,400

回次	第169期 第2四半期連結 会計期間	第170期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年 7月1日 至2018年 9月30日	自2019年 7月1日 至2019年 9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	32.83	60.79

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続くなか、引き続き緩やかな回復基調で推移しましたが、米中貿易摩擦の長期化による中国経済の減速や、欧州経済の悪化等の海外経済の不確実性の影響により、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、3カ年中期経営計画『CI・J-3(Challenge&Innovation・Joint)』中間年度として、今後も成長が見込まれる環境・エネルギー関連分野に注力し、成長性に重きを置いた事業領域の拡大を図るとともに、高付加価値なシステム・ソリューションビジネスの展開による収益性の向上に取り組んでおります。

これらの取組みにより、インフラ事業の鉄道会社及び官公庁向けビジネスが好調に推移し売上に貢献しました。一方、利益に関しては、米中貿易摩擦長期化の影響を受け利益率の高いFAシステム事業のFA分野や情通・デバイス事業の半導体・デバイス分野が苦戦しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高につきましては56,781百万円（前期比4.4%増）となりましたが、経常利益につきましては、利益率の高い分野が苦戦したことによる総利益率の低下と、本社社屋移転に伴う一時的な経費増から1,269百万円（前期比619百万円減）となりました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、旧本社社屋及び土地の売却益1,433百万円を計上したことから、1,811百万円（前期比538百万円増）となりました。

セグメント別の営業の概況

(単位：百万円)

		前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減率
				増減額
FAシステム事業	売上高	21,330	21,257	0.3%
	経常利益	1,226	993	232
ビル設備事業	売上高	7,449	6,419	13.8%
	経常利益	22	6	15
インフラ事業	売上高	11,673	17,397	49.0%
	経常利益	23	9	33
情通・デバイス事業	売上高	13,952	11,706	16.1%
	経常利益	542	191	351

FAシステム事業

FA分野は、配電制御や回転機器は前年並みに推移したものの、駆動機器、コントローラが中国市場の低迷が続く機械装置メーカー向け受注が低調な推移となりました。

産業メカトロニクス分野は、放電加工機、レーザ加工機ともに前年並みの推移となりました。

産業システム分野は、プラントメーカー向けの電気設備の大口径案件を計上し大幅に伸長しました。

その結果、当該事業としては0.3%の微減収に止まりましたが、利益率の高いFA分野の低調が影響し経常利益は232百万円の減益となりました。

ビル設備事業

設備機器分野は、昇降機は前年並みの推移となりました。一方、受変電設備の需要は情報・通信事業者向けに継続しておりますが、工期の延期等もあり減少となりました。

空調・冷熱機器分野は、低温機器、住設機器は前年並みの推移となったものの、空調機器が低調な推移となりました。

その結果、当該事業としては13.8%の減収となり、経常利益は15百万円の減益となりました。

インフラ事業

交通分野は、鉄道会社向け受変電設備機器の大口案件により大幅に伸長しました。

社会システム分野は、再生可能エネルギー関連ビジネスである太陽光発電（メガソーラ）案件は前年並みの低調な推移となりましたが、官公庁ビジネスが好調に推移しました。

その結果、当該事業としては49.0%の大幅増収となり、経常利益は33百万円の増益となりました。

情通・デバイス事業

情報通信分野は、セキュリティに関する需要が継続しているものの、画像映像システムは流通業者向け案件が低調な推移となりました。電子医療装置は、前年並みとなりました。

半導体・デバイス分野は、OA機器向け電子デバイス品が堅調に推移したものの、PC向けハードディスクドライブ用ICはハードディスクドライブの需要が減少し、産業用パワーデバイス及び電子デバイス品は産業機器関連顧客の生産調整の影響により低調に推移しました。

その結果、当該事業としては16.1%の減収となり、経常利益は351百万円の減益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、72,855百万円（前連結会計年度末比13,945百万円減）となりました。

流動資産は、57,230百万円（前連結会計年度末比11,129百万円減）となりました。これは、前連結会計年度末と比較して、現金及び預金が748百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が10,920百万円減少、有価証券が1,199百万円減少したことが主要な要因であります。

固定資産は、15,625百万円（前連結会計年度末比2,816百万円減）となりました。これは、前連結会計年度末と比較して、工具、器具及び備品が365百万円増加した一方で、土地が1,674百万円、投資有価証券が249百万円、繰延税金資産が1,138百万円減少したことが主要な要因であります。

一方、流動負債は、26,675百万円（前連結会計年度末比14,598百万円減）となりました。これは、前連結会計年度末と比較して、電子記録債務が1,291百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が9,956百万円減少、前受金が3,287百万円減少、未払法人税等が1,819百万円減少したことが主要な要因であります。

固定負債は、1,778百万円（前連結会計年度末比524百万円減）となりました。

純資産は、44,401百万円（前連結会計年度末比1,177百万円増）となりました。これは、前連結会計年度末と比較して、親会社株主に帰属する四半期純利益を1,811百万円計上、土地再評価差額金取崩額が1,143百万円、配当金の支払が555百万円あったことにより、利益剰余金が2,398百万円増加した一方で、その他の包括利益累計額の土地再評価差額金が1,143百万円減少したことが主要な要因であります。

その結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は60.9%、1株当たり純資産額は1,557円71銭となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当社グループの当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ452百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には15,948百万円（前連結会計年度末比2.8%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と増減要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、源泉である税金等調整前四半期純利益について2,649百万円（前年同期は1,883百万円）を確保出来たことに加え、売上債権の減少10,397百万円があった一方、仕入債務の減少8,640百万円、たな卸資産の増加が830百万円、賞与引当金の減少が418百万円、固定資産売却益1,433百万円、法人税等の支払額が1,929百万円あったこと等により、655百万円の収入（前年同期は3,612百万円の収入）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入144百万円があった一方、有形固定資産の取得による支出664百万円、無形固定資産の取得による支出30百万円があったこと等により、509百万円の支出（前年同期は251百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払553百万円があったこと等により、560百万円の支出（前年同期は513百万円の支出）となりました。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	28,600,000	28,600,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	28,600,000	28,600,000		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		28,600,000		5,576		5,359

(5)【大株主の状況】

(2019年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
三菱電機株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	72,040	25.27
カナデン取引先持株会	東京都港区新橋四丁目22番4号 株式会社カナデン内	28,210	9.90
BRITISH EMPIRE TRUST PLC (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	51 NEW NORTH ROAD EXETER DEVON EX4 4 EP UNITED KINGDOM (東京都港区南二丁目15番1号品川イン ターシティA棟)	13,680	4.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	9,165	3.22
カナデン従業員持株会	東京都港区新橋四丁目22番4号 株式会社カナデン内	9,133	3.20
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	7,518	2.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	7,303	2.56
三菱倉庫株式会社	東京都中央区日本橋一丁目19番1号	6,563	2.30
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀 行株式会社)	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号晴海ア 일랜드トリトンスクエアオフィスタ ワーZ棟)	6,009	2.11
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	4,556	1.60
計		164,179	57.60

- (注) 1 所有株式数は、百株未満を切り捨てて表示しております。
2 2019年5月30日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、アセット・バ
リュアー・インベスターズ・リミテッドが2019年5月28日現在で以下の株式を所有している旨が記載されてい
るものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記
大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者 アセット・バリュアー・インベスターズ・リミテッド
住所 英国ロンドン市、セント・ジェームズズ、ビュリイストリート25
保有株券等の数 株式 1,724,400株
株券等保有割合 6.03%

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(2019年 9月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 95,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,469,700	284,697	-
単元未満株式	普通株式 35,100	-	-
発行済株式総数	28,600,000	-	-
総株主の議決権	-	284,697	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式30株が含まれております。

【自己株式等】

(2019年 9月30日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株)カナデン	東京都中央区晴海 1 - 8 12 トリトンスクエア Z棟	95,200	-	95,200	0.33
計		95,200	-	95,200	0.33

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,901	8,649
受取手形及び売掛金	37,346	26,425
電子記録債権	6,055	6,547
有価証券	8,999	7,799
商品及び製品	4,478	5,296
原材料及び貯蔵品	3	2
その他	3,576	2,510
貸倒引当金	2	1
流動資産合計	68,359	57,230
固定資産		
有形固定資産	10,454	9,041
無形固定資産	302	331
投資その他の資産		
投資有価証券	6,025	5,776
その他	1,661	479
貸倒引当金	2	2
投資その他の資産合計	7,684	6,252
固定資産合計	18,441	15,625
資産合計	86,801	72,855

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,426	16,470
電子記録債務	3,683	4,975
未払法人税等	2,043	224
賞与引当金	1,228	810
役員賞与引当金	99	27
その他	7,791	4,167
流動負債合計	41,273	26,675
固定負債		
退職給付に係る負債	1,498	1,497
その他	804	280
固定負債合計	2,303	1,778
負債合計	43,576	28,453
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,576	5,576
資本剰余金	5,353	5,356
利益剰余金	29,124	31,523
自己株式	152	122
株主資本合計	39,901	42,332
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,614	1,528
土地再評価差額金	1,521	378
為替換算調整勘定	11	37
退職給付に係る調整累計額	174	199
その他の包括利益累計額合計	3,322	2,068
非支配株主持分	-	-
純資産合計	43,224	44,401
負債純資産合計	86,801	72,855

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	54,405	56,781
売上原価	46,977	49,567
売上総利益	7,427	7,214
販売費及び一般管理費	5,663	6,015
営業利益	1,764	1,199
営業外収益		
受取利息	9	12
受取配当金	73	91
仕入割引	12	12
為替差益	43	-
その他	36	38
営業外収益合計	175	154
営業外費用		
支払利息	5	5
売上割引	29	34
為替差損	-	29
その他	14	14
営業外費用合計	49	83
経常利益	1,889	1,269
特別利益		
固定資産売却益	-	1,433
投資有価証券売却益	0	13
ゴルフ会員権売却益	0	-
特別利益合計	0	1,447
特別損失		
事務所移転費用	-	62
ゴルフ会員権評価損	6	-
固定資産除却損	0	5
特別損失合計	7	68
税金等調整前四半期純利益	1,883	2,649
法人税、住民税及び事業税	338	179
法人税等調整額	272	659
法人税等合計	610	838
四半期純利益	1,272	1,811
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,272	1,811

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,272	1,811
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	78	86
為替換算調整勘定	50	49
退職給付に係る調整額	18	25
その他の包括利益合計	147	110
四半期包括利益	1,125	1,700
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,125	1,700
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,883	2,649
減価償却費	101	110
賞与引当金の増減額(は減少)	706	418
受取利息及び受取配当金	82	103
支払利息	5	5
売上債権の増減額(は増加)	9,650	10,397
たな卸資産の増減額(は増加)	445	830
仕入債務の増減額(は減少)	5,359	8,640
固定資産売却益	-	1,433
その他	452	751
小計	4,593	2,488
利息及び配当金の受取額	81	102
利息の支払額	5	6
法人税等の支払額	1,057	1,929
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,612	655
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	66	0
定期預金の払戻による収入	67	-
有形固定資産の取得による支出	89	664
無形固定資産の取得による支出	94	30
投資有価証券の取得による支出	78	5
投資有価証券の売却による収入	11	144
その他	2	47
投資活動によるキャッシュ・フロー	251	509
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	502	553
その他	10	6
財務活動によるキャッシュ・フロー	513	560
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	37
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,838	452
現金及び現金同等物の期首残高	16,889	16,400
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,727	15,948

【注記事項】

(追加情報)

(譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分)

当社は、2019年7月30日開催の取締役会において、当社の取締役(社外取締役を除く。)に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式の処分(以下、「本自己処分」といいます。)を行うことについて、下記のとおり決議し、実施いたしました。

1. 処分の概要

(1) 払込期日

2019年8月30日

(2) 処分する株式の種類及び株式数

当社普通株式22,645株

(3) 処分価額

1株につき1,420円

(4) 処分価額の総額

32,155,900円

(5) 割当先

取締役6名() 22,645株

社外取締役を除きます。

(6) その他

本自己株式処分については、金融商品取引法による有価証券通知書を提出しております。

2. 処分の目的及び理由

当社は、2018年5月11日開催の取締役会において、当社の取締役に対して当社の中長期的な企業価値及び株主価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与すると共に、株主の皆さまと一層の価値共有を進めることを目的として、当社の取締役を対象とする報酬制度として、譲渡制限付株式報酬制度(以下「本制度」といいます。)を導入することを決議しました。

また、2018年6月20日開催の第168回定時株主総会において、本制度に基づき、譲渡制限付株式の付与に係る現物出資財産として、既存の金銭報酬枠とは別枠で、当社の取締役(社外取締役を除く)に対して年額5千万円以内の金銭報酬債権を支給することにつき、ご承認をいただいております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
従業員給料諸手当	1,902百万円	1,991百万円
賞与引当金繰入額	870百万円	810百万円
退職給付費用	106百万円	171百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	8,794百万円	8,649百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	566百万円	501百万円
有価証券勘定	11,499百万円	7,799百万円
現金及び現金同等物	19,727百万円	15,948百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月11日 取締役会	普通株式	503	17.0	2018年3月31日	2018年6月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年10月30日 取締役会	普通株式	578	19.5	2018年9月30日	2018年11月29日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月14日 取締役会	普通株式	555	19.5	2019年3月31日	2019年6月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月29日 取締役会	普通株式	655	23.0	2019年9月30日	2019年11月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	FAシステム事業	ビル設備事業	インフラ事業	情通・デバイス事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	21,330	7,449	11,673	13,952	54,405
セグメント間の内部 売上高又は振替高	56	25	8	46	137
計	21,387	7,475	11,682	13,998	54,543
セグメント利益又は損失()	1,226	22	23	542	1,768

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,768
全社費用(注)	121
四半期連結損益計算書の経常利益	1,889

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自2019年4月1日 至2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				
	FAシステム事業	ビル設備事業	インフラ事業	情通・デバイス事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	21,257	6,419	17,397	11,706	56,781
セグメント間の内部売上高又は振替高	66	26	0	36	130
計	21,324	6,445	17,398	11,743	56,911
セグメント利益	993	6	9	191	1,201

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,201
全社費用（注）	68
四半期連結損益計算書の経常利益	1,269

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）
1株当たり四半期純利益	42円92銭	63円58銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	1,272	1,811
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	1,272	1,811
普通株式の期中平均株式数（千株）	29,651	28,488

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

2019年10月29日開催の取締役会において第170期（自2019年4月1日 至2020年3月31日）の中間配当につき、次のとおり決議しました。

配当金の総額	1株当たりの配当金	支払請求の効力発生日及び支払開始日	摘要
655百万円	23.0円	2019年11月28日	当社定款第43条に基づき2019年9月30日最終の株主名簿に記載された株主に対し、配当金を支払う。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月1日

株式会社カナデン

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 青柳 淳一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡辺 雅子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社カナデンの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社カナデン及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。